

愛知県生徒指導推進協議会の報告について

このことについて、別紙資料に基づき報告します。

平成 2 8 年 3 月 2 8 日

義 務 教 育 課

学校と家庭とのよりよい協働によって児童生徒は育つ

学校と家庭とのよりよい協働を進めることは、互いの良さや役割の理解を深め、児童生徒相互の良好な人間関係づくりを後押しし、問題行動等の未然防止につながります。

Plan

【東三河地区の小学校における実践】

心豊かで思いやりのある子の育成

* 心のつながりを大切にしたい温かい安らぎのある学級・仲間づくりを目指す。

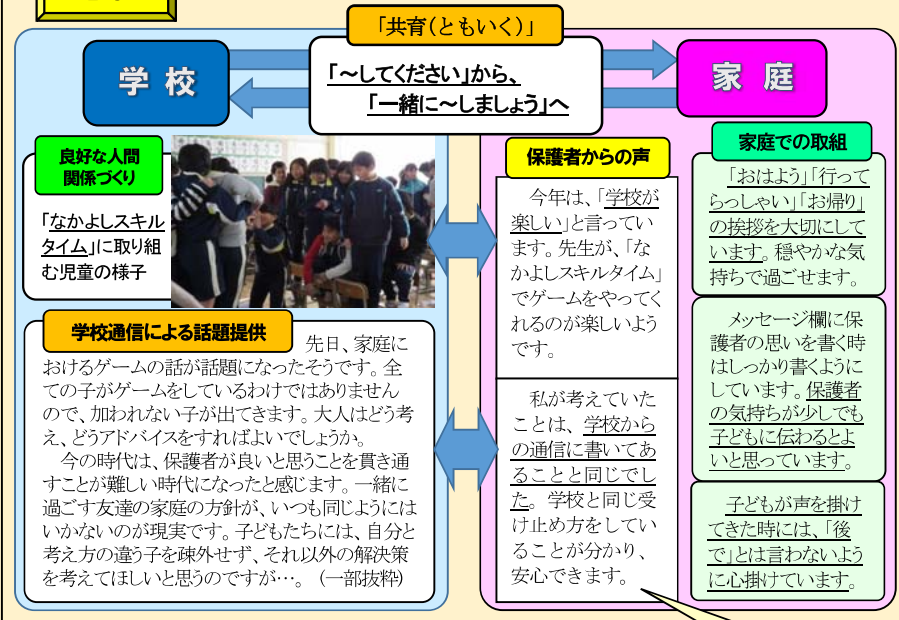
【共育(ともいく)】 子どもたちの「よりよく生きよう」とする思いを受け止め、「共に育ち合う」という姿勢で成長を支えていく。

目指す子ども像や生徒指導の重点等を、学校通信やWebページ等で保護者に伝えています。

全員達成「あはは」の実践(基本的な生活習慣を当たり前にする)

「あ」……いつでもどこでも誰にでも「あ」いさつ「自分から」「地域の人へ」
「は」……靴箱とトイレの「はきもの」をそろえ
「は」……名前を呼ばれたら「はい」と返事

Do



Check

- ・全教職員による取組の振り返り
- ・保護者の声から、取組への理解の深まりについて検証

Act

- ・進んで仲間と関わり、協力して活動できる児童生徒の育成
- ・保護者に協力してほしいことをより具体的に提示
- ・子育てについて保護者と共に考える機会の設定

子どもの様子や保護者に考えてほしい話題を伝え、情報共有の充実を図っています。

生徒指導リーフ No.3

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方 ～情報共有と行動連携による取組を通して～

いじめや暴力行為、様々なきっかけによる不登校等、児童生徒の問題行動等を解決するためには、早期発見・早期対応に努めるだけでなく、全ての児童生徒の規範意識や自己有用感を育み、仲間とよりよい人間関係を構築できる力を育成する未然防止の取組が重要になってきています。そのためには、児童生徒の生活の場である学校と家庭が情報を共有し、信頼関係を築き、児童生徒の成長を協力して支援する体制を整えることが必要だと考えます。児童生徒の問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方を、今一度見直してみましょう。



「未然防止」には、教育的予防の視点が大切です！

【参考】 国立教育政策研究所作成
生徒指導リーフ
Leaf.5「教育的予防」と「治療的予防」より

教育的予防	未然防止	全ての児童生徒を対象に、日頃から集団生活の中で規範意識や自己有用感を醸成し、よりよい人間関係を構築していく力を育成していくこと。
治療的予防	早期発見	該当児童生徒を対象に、いじめや不登校の兆候を早期に発見し、相談や解消に向けた支援等の対策を行い、重症化を防ぐこと。
	早期対応	
	再発防止	該当児童生徒を対象に、問題発生の際の振り返りと立ち直り支援等を実施し、再発防止に向けた働き掛けを行うこと。

☆「未然防止」のために、学校は！

- 児童生徒が仲間と関わる楽しさや思いやりの気持ちを伝え合える環境や、悩みを共有し合える集団をつくっていきましょう。
- 児童生徒が学校生活を落ち着いて過ごすための話し合い活動や体験活動を温かく見守り、支援していきましょう。

☆学校と家庭との協働による取組を！

- 家庭ごとに、教育に対する保護者の考え方は様々です。家庭環境は、児童生徒の成長に大きな影響を与えることから、家庭の理解を得ることが大切です。積極的な話し合いを通じて、信頼・協力関係を構築していきましょう。
- よりよい協働のポイントは、情報共有と行動連携です。PDCAサイクルによる計画的な協働を進め、問題行動等の未然防止に向けた取組を推進しましょう。



仲間とよりよい人間関係を構築できる児童生徒

問題行動等の未然防止に向けてPDCAサイクルによる学校と家庭との協働の充実を図りましょう！



学校でも家庭でも、自分のことを見守ってくれることが分ると、安心できるね。

児童生徒の規範意識・自己有用感等の醸成

◇ 児童生徒の活動のあらゆる機会を活用し、未然防止に向けた情報共有・行動連携による取組を計画的に設定しましょう！

- 児童生徒の成長にどのような成果が期待できるか、見直しをもって双方向からの働きかけを考える。
- 効果的な取組ができる機会や方法について保護者と話し合い、計画的に設定する。

取組の工夫例

* 教育方針や取組のねらいの共有……年度当初の懇談会等で、いじめ防止基本方針や生徒指導方針を示し、具体的な取組について家庭と共有したいことを話し合う。

◇ 成果と課題を、新たな取組へつなげましょう！

- 学校・家庭からの働きかけの成果を児童生徒や保護者に伝え、今後の働きかけの継続と信頼関係の構築に結び付けていく。

取組の工夫例

* 保護者が参加した行事・調査活動の見直し……校長を中心に、教頭・教務主任・行事担当教員等を構成員とするプロジェクトチームを編成し、改善の方向性について家庭との共通理解を図る。

◇ 「情報共有」・「行動連携」の取組について振り返りましょう！

- 児童生徒の言動や変容について保護者から意見・要望を吸い上げ、学校と家庭との協働による取組を検証し、成果と新たな協働への課題を明確にする。

取組の工夫例

* 実態調査の効果的な活用……定期的に実施する学校アンケートや学校評価の中に家庭との協働に関する項目を入れ、結果を懇談会等で提示して話し合う。(学校での様子についての情報発信の仕方・内容、親子参加型の行事の在り方等)



◇ 情報共有の充実を図り、行動連携を促進しましょう！

- 休み時間・給食の時間等での児童生徒のつぶやき等に耳を傾け、その内容や様子から心の状態を捉え、家庭連絡をするなど、児童生徒を中心にして双方向の情報共有を心掛ける。
- 客観的な事実とともに、よりよい成長への思いを加えた伝達を心がける。

取組の工夫例

* 学校・家庭での姿・様子の伝え合い……学校と家庭の双方から、それぞれの生活の場で捉えた児童生徒の良さを情報提供し合う。(挨拶、言葉遣い、係・委員会活動、ボランティア活動、地域行事の様子等)

* 保護者へのありがたうメッセージ……児童生徒の頑張りとともに、保護者の支援に対して感謝の思いを伝える。(連絡ノート・学級通信・電話連絡 等)

◇ 行動連携の充実を図り、児童生徒の支援効果を高めましょう！

- 「～してくだい」ではなく「一緒に～しましょう」という姿勢をもつ。
- 学校と家庭の良さと役割を生かし、同じ方向性をもって取り組む。

取組の工夫例

* 行事記録での認め合い……児童生徒が仲間と協力して成し遂げた行事における取組をまとめた記録等に、担任と保護者から称賛の言葉を書き添える。(振り返りカード、壁新聞 等)

* 親子で思いを共有する行事の設定……親子で参加するコンクール等の機会を設定する。(人権やいじめ撲滅を取り上げたポスター・作文・標語のコンクール 等)

* 保護者主体の活動への協力・参加……保護者自らが企画・運営する行事・会合等に参加する。(PTA主催のスポーツ行事、児童生徒の健全育成に向けた会合 等)



計画

改善

振り返り

学校の良さ

○ 仲間の考え方や価値観に触れ、見方や考え方を広げる場。
○ 良さを生かし、やればできるといふ達成感を味わう場。

学校の役割

○ 集団生活のルールを身に付けさせ、思いやりや感謝の心を育てる。
○ 仲間と関わる楽しさや活動の喜びを味わわせ、自己有用感を育む。

家庭の良さ

○ 幼少期からの成長を理解し、ささいなことでも安心して話せる場。
○ 子どもの思いを受け止め、その努力を認めて成長を後押しできる場。

家庭の役割

○ 日常生活に必要なしつけを行い、集団生活を送るための基礎を培う。
○ 手伝いなど家庭の役割を果たす中で、家族の中で自己有用感を育む。

情報共有

行動連携

学校と家庭のそれぞれの良さと役割を共通理解した上での信頼・協力関係の構築

学校の教育方針

家庭の教育観